

トピックス

こんごう福祉センター

すぐよか訪問看護事業のご紹介

～病気、障がい、年齢を問わず、利用者のわたしらしく生きる自立生活を支援します～

平成30年11月より医師と連携しながら訪問看護事業を運営しています。

主な業務内容は、巻き爪などの特殊な爪切りや内服管理、入浴介助、便秘や腰痛対策(腰腹部マッサージやリハビリ)、環境整備(クーラーや部屋の掃除)など、医療的な視点での健康管理や日常生活のお手伝いをしています。

また、言葉でうまく相手に思いを伝えることができない利用者に対して、何気ない一つひとつの動作を見逃さず、利用者のペース・待つことを大切にし、尊重する姿勢でお話を聞くようにしています。事業団グループホームからの訪問看護の依頼では、理学療法士と連携しながらリハビリを行っています。栄養士とも連携をはかり、食事制限をがんばられた結果、体重維持ができる利用者もいます。

6月には、訪問看護を長年経験した看護師が入職しました。これからも、すぐよか訪問看護は、利用者の豊かな生活を目指し、地域に開かれた訪問看護活動をがんばっていきます。



腹部の観察、マッサージの様子
訪問看護利用ご希望の方は
連絡先: 0721-34-2201
山田・北口までお願いします。



すぐよか訪問看護スタッフ

きたおおさか福祉センター

就職活動がんばっています!

大阪INA職業支援センターでは、就職を目標に一年間の職業訓練を行っています。現在は、3月中ごろの卒業を控え、就職活動の真っ最中です。

就職活動は、ハローワークなどの求人情報を見て、就きたい仕事を決め、面接を受けることから始まります。

面接日が決まると、履歴書をしっかりと整え、面接練習が始まります。本番では緊張してなかなかうまく答えられないものです。面接練習は本番さながら、とても気合が入ります。

みなさんがんばって!



お問い合わせ先
072-729-7021 担当: 井上

※大阪INA職業支援センターへの入校には入校試験を受けていただく必要があります。
次年度訓練生の2次募集を行っていますので、詳しくはINA職業支援センターまでお問い合わせください。

みなみおおさか福祉センター

感動と勇気をありがとうございます

世界中が注目する中、日本で開催されたラグビーワールドカップ。

日本代表「JAPAN」の活躍は記憶に新しいものです。

堺市でワールドカップに向け合宿をしていた合間に、堺市をとおして訪問の依頼があり、JAPANの代表選手がじょぶライフだいせんを訪問してくれたのは7月



30のことでした。リーチマイケル主将をはじめ、8名の代表メンバーが来られ、利用者、職員からは歓声が上がり、大きな拍手で迎えました。利用者との交流や就労移行では作業にも参加していただき、試合中には見られない優しい笑顔がとてもかっこよく印象的でした。ワールドカップは、テレビをとおして、ベスト8までの素晴らしい試合を手に汗握りながらみんなで応援しました。選手の皆さん感動と勇気をいただきました。



社会福祉法人

大阪府障害者福祉事業団

〒584-0054 大阪府富田林市大字甘南備216番地

SFJ事業団

[法人事務局]

TEL 0721-34-2180

FAX 0721-34-2121

ホームページアドレス

<https://www.sfj-osaka.net>

大阪府障害者福祉事業団機関紙

かんなんひ

[事業団理念] ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現



年頭のご挨拶

いいだてつし 理事長 飯田哲司



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、多くの皆様よりご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。昨年を振り返りますと、5月に新天皇が即位され、元号も令和に改められました。一方、一昨年に起きた大阪北部地震や台風21号による甚大な被害など大きな災害があったのも記憶に新しい中、昨年も大型で最大といわれた台風15号が9月に、19号が10月に相次いで関東に上陸し、大雨により、各地で河川の堤防が決壊し、過去50年間で最大の水害をもたらしました。

他方、福祉現場では労働者不足が深刻度を増しており、災害対策と共に人材の確保については、当事業団においても喫緊の課題となっております。

令和元年度は、当事業団においても50年という節目を迎える年でもありました。「利用者の地域生活への移行」と「利用者の状態に合った施設種別への転換」の2つの方針の基、平成16年からの足かけ15年に及ぶ府立金剛コロニー再編整備も、昨年4月に整備グループホーム「しろくま」が開所したことにより完了いたしました。

また、利用者の高齢化が急速に進んでいます。コロニーから地域移行され、グループホームで生活されている利用者の加齢による機能低下が顕著になっており、今後多くの方が介護を必要とする状態になることが予想されます。そのため、利用者一人ひとりのライフステージに応じた支援環境を提供できるよう検討を始めています。当事業団は幼児期から学齢期・青壮年期・高齢期とライフステージに応じた、多岐にわたるサービスの提供ができるインフラを整備しており、利用者の皆様に安心して生活していただけるよう、利用者や家族に丁寧な説明をし理解を求め、支援に努めてまいります。

運営面におきましては、平成29年度大阪府から

完全独立し、自主運営に移行し3年目が経過しようとしています。自主運営の初年度は、8事業所が減価償却後赤字状態での出発でしたが、2年目は全事業所において黒字を計上し、職員に対しても賞与加算の支給をすることができました。令和元年度も、なんとか黒字計上ができる見込みとなっております。

私どもに課せられている課題はいくつもありますが、何よりも大事なのが利用者の皆様が安心して生活ができるよう事業を継続していくことです。そのため今後は、社会の動向に迅速に対応しながら、より安定した経営基盤の強化を図り、地域のニーズに即した運営を図ってまいります。

改めて利用者のニーズを真摯に受け止め、ライフステージに応じた質の高い福祉サービスを提供し、地域に貢献できる法人であり続けるための不断の努力を行ってまいります。そのためには、日々の支援にかかる職員の育成が何より重要であると考えており、「次世代育成」という将来を担う職員に対する投資こそが、最も重要であると認識しております。

職員の生活をしっかりと支え、職場環境の充実を図ることで、安定した質の高いサービスを提供できると考えております。今まで以上に人材育成に力を注ぎ、人を呼ぶ施設づくりを目指してまいります。

私どもは現状に満足することなく、今後も利用者、家族、地域の皆様及び関係機関の皆様の期待に応えるべく、職員一同、サービスの向上にむけ日々努力してまいります。皆様には今まで以上に、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、私どもを支えてくださる全ての関係者の皆様のご多幸とご健勝を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



50年目の設備等リニューアル!

向陽橋からこんごう福祉センターに入ると、左手に銀色に輝く建造物があります。これはこんごう福祉センター内の生活に不可欠な「水」を、各施設に供給するための「給水設備」です。一方、深山橋から構内に入り左手にある枝道を進むと、薄緑色の建物が現れます。これは構内の各施設からの生活排水を処理する「汚水処理場」です。これらは今年、大阪府の工事により最新の機能を持った設備に生まれ変わった姿なのです。

富田林市甘南備の地で、こんごう福祉センターの運営が開始されて約50年が経ちます。その間も、利用者の生活を守る「給水設備」と「汚水処理場」は稼働を続けてきました。約50年間、毎日休むことなく働いてくれた旧設備たちは、この号が発刊される頃



には完全にその役目を終えていることでしょう。ちなみに、旧の給水設備は地面の下にありました。

こんごう福祉センター約50年の歴史の中で、初めて実施された「給水設備」と「汚水処理場」の全面的な建替えとあって、とても大規模な工事です。長期間に渡って、業務の中で新設備たちが出来上がっていいく様子を目の当たりにしていると、自然とこの新設備たちに愛着も湧いてきます。また利用者の安全な生活を守るために、この度の建替え工事がいかに重要なことかも感じることができました。

約50年間頑張ってくれた旧設備たちは「お疲れ様でした」という労いと、これから数十年頑張って貢うことになる新しい設備たちは「宜しくお願いします」という言葉を掛けたいと思います。

自閉症支援プロジェクトチーム始動!!

今年度、事業団内における自閉症支援のスキルアップを目指し、自閉症支援プロジェクトチームが発足しました。

障がいの特性を理解し、個人にあった支援をしていくためには専門性が必要になります。誰もが安心して、その人らしく暮らせるように…自閉症支援の輪が広がり、当たり前に支援がなされるように…プロジェクトチームが専門性を高めるお手伝いをします。

支援者を育成する「スキルアップ研修」は、障害者支援施設かつらぎの「すすき」をモデルユニットとし、各事業所から研修生を受け入れています。

各事業所から20名程度の申し込みがあり、自閉症支援を学ぶことのできるフィールドで、実践的な取り組みを見て感じて学ぶのですが、学んだことを各事業所に持ち帰り、その支援が展開されることを狙っています。

また、11月7日に「強度行動障がい支援セミナー」と題して、自閉症支援の第一人者である中山清司氏

(オフィスぽん代表)の講演と、スキルアップ研修のモデルユニットである、かつらぎの「すすき」の事例報告を行いました。事業団内外から120人の参加があり、関心の高さがうかがえました。

事例報告を聞いた中山さんからは、「大阪府でもトップクラスの支援」との評価をいただき、事業団がこれまで培ってきた支援のノウハウが生かされてきた結果であると考えております。

今回のセミナーのように、事業団内にとどまらず事業団外にも支援の裾野を広げていけるよう、ネットワークを作り様々な取り組みをしていきたいと思っています。



職員サークル活動紹介

山の会



5・6年前に特別養護老人ホームかんなびのさとの有志の数人で金剛山に行く事になり、登山が全くの未経験の私や、学生時代から登山経験のあるベテランの方などが集まり、月1回定期的に登る事になりました。最初はかんなびのさとのメンバーだけでしたが、だいに口コミで「仲間に入れて~」と声を掛けてもらうようになり、かんなびのさと以外の職員や職員の家族、また退職されご無沙汰していた方も参加してもらえたりと山の会のグループラインは17名になっております。春夏秋冬四季折々の山の風景を楽しみながら、明日の仕事に差し障りのないようにゆっくり登っています。

金剛山だけでなく、秋にはみたら溪谷にも行ってきました。気持ちの良い汗をかい後、山の上でのおいしい昼食は最高です。忘年会は金剛山山頂近くの香楠荘で行い、山の仲間と食べた鴨鍋は本当に美味しかったです。

食べる事ばかりになってしましましたが、毎月第4土曜に登っています。どなたでも歓迎ですので、参加希望の方はかんなびのさと北澤までご連絡ください。



フットサル



5年ほど前より、仕事終りにフットサルで汗を流しています。

始まりは、「フットサルが好き!」「日々の運動不足を解消したい!」「みんなでワイワイしたい!」との思いから周りの人に声をかけスタートしました。

今では男女、経験の有無、事業所を問わず、若手からベテランまで、多くの職員が仕事終りに集まり、月に数回活動しています。

仕事で多少疲れていても、ユニフォームに着替えてコートに集まる、自然とあちらこちらから笑い声が聞こえます。談笑しながらウォーミングアップをし、身心ともに和らいできたらよいよゲーム形式!

未経験の人も多いですが、それぞれが思い思いのプレーで気持ちよく汗を流し、休憩もしっかりとりながらワイワイとフットサルを楽しんでいます。

思いっきり体を動かせば、日々の運動不足やストレスも解消でき、また明日からの仕事への活力ともなります。事業所を問わず集まっているので、フットサルで初めて会う職員もあり所属の事業所以外の仲間を作る良い機会にもなっています。

「体を動かしたい!」「職員同士のコミュニケーションをとりたい!」「新しい趣味を見つけたい!」など興味のある方は、事業課長澤までご連絡ください。みんなで楽しく汗を流しましょう!!

